

木材ニューズレター

(財)日本木材総合情報センター
TEL03-3816-5595 FAX03-3816-5062

木材製品の荷動き・価格先行き動向調査(20年6月分)

1. 調査実施期間 平成20年 5月20日 ～6月10日

2. 調査実施方法

東京、大阪、名古屋の流通企業(問屋、仲買・小売商)に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。

6月分の回答企業数は45社、回収率は97.8%である。

3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

$$\text{Weight. D. I. (ウェイト・ディフュージョン・インデックス)} = \{(\text{「増加」の評価を行った回答の割合}) \times 2 + (\text{「やや増加」の評価を行った回答の割合}) - (\text{「減少」の評価を行った回答の割合}) \times 2 - (\text{「やや減少」の評価を行った回答の割合})\} \div 2$$

したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

4. 調査結果の概要

(1) 荷動き動向

表-1 荷動き Weight. D. I.

		20/6月	7月	8月
仕入動向	国産材	△ 18.1	△ 15.3	△ 18.6
	外材	△ 14.0	△ 18.6	△ 13.1
販売動向	国産材	△ 22.2	△ 18.6	△ 22.1
	外材	△ 20.9	△ 11.9	△ 17.1
在庫動向	国産材	△ 15.7	△ 18.6	△ 16.2
	外材	△ 9.3	△ 16.3	△ 16.7

仕入は、国産材、外材ともやや大きなマイナス幅の横ばいと弱い。

販売も同様に、国産材、外材とも若干上下するがやや大きなマイナス幅の横ばいと弱い。

在庫も、国産材、外材ともやや大きなマイナス幅ほぼ横ばい。

(2) 価格動向

表-2 価格 Weight. D. I.

品目	20/6月	7月	8月
スギ正角(グリーン)	△ 7.4	△ 5.6	△ 5.8
スギ正角(KD)	△ 1.9	△ 1.9	△ 1.9
ヒノキ正角	△ 1.8	0.0	△ 1.9
ヒノキ土台角	△ 1.9	0.0	△ 1.9
米ツガ正角(現地挽)	△ 2.2	△ 2.2	△ 2.2
米ツガ防腐土台角	0.0	△ 2.1	△ 2.2
米ツガ割物(現地挽)	0.0	2.1	0.0
米マツ平角	2.1	0.0	△ 2.2
北洋アカマツタルキ(現地挽)	24.0	26.0	8.3
ホワイトウッド集成管柱	△ 3.8	0.0	△ 2.0
レッドウッド集成平角	4.3	0.0	△ 2.2
型枠合板(国産)	19.0	16.7	7.5
型枠合板(輸入)	12.5	16.7	8.7
針葉樹合板	20.5	15.9	11.9

スギ正角(グリーン、KD)小さなマイナスに変化ないが堅調。

ヒノキ正角、土台は小さなマイナス、ゼロだが回復足踏み。

米ツガ正角、防腐土台角は、マイナス基調だが堅調。米ツガ割物、米マツ平角はプラス幅、ゼロと前月同様明るさ引き続いている。北洋アカマツタルキは大きなプラス幅一気に縮めるが絶好調の様相か。W管柱、RW平角ともゼロ前後で堅調だが勢い出てこない。

合板やや大きなプラスで全く安定し好調。なお、針葉樹合板は一気の完全回復で一層の強含み。

1. 荷動き		コメント
仕入 動向	米マツ一般材丸太では、米物輸出価格は5月積みも据え置き。カナダ物はセカンドグロスFASに変化はないものの、カスケード、OGタイプFASは一段とアップ。プレートも再値上がりの様相で、新材は確実にコストアップ。(東京:問屋)	
	産地価格は相変わらず強い。天候不順で生産量も増えてはいないため、産地価格の下げは見込めない。(東京:問屋)	
	産地からのオファーが途絶え、近々の入荷は全く無し。(東京:問屋)	
	5月の荷動きが悪い。4月の動きを見て仕入れたためダブツキ気味。(東京:問屋)	
	頼めばすぐ来る。ツガのKD材割物、WW間柱が少ない。イギルマアカマツがなかなか手当て出来ない。(東京:問屋)	
	丸太の端境期でもあり、荷物は少なくなる。(東京:問屋)	
	先行き円安と現地FOB 10%アップで値上がり。(東京:問屋)	
	価格は安い荷動き無いので仕入れは控え目。(東京:問屋)	
	安くても売れない時代がやって来たようだ。(東京:問屋)	
	都内で木造住宅建築の現場を見ることがすっかり無くなった。米国のサブプライム問題以降、世界経済の不安から景気先行きが分からず、建築着工数の大幅な減少で業界は軒並み厳しい。(東京:仲買小売)	
販売 動向	北洋アカマツタルキを従来の国内挽きのみから、現地挽きとの併用に変更。試用と保険を兼ね仕入れ増やす。(東京:仲買小売)	
	国産材、外材共入荷は少ない。販売も依然として荷動き悪き。(東海:問屋)	
	京浜マーケットでは米マツカスケード注文挽きメーカーの需要は底固いものがあり、カスケード丸太の荷動きは良いが、コスト材既製品取り用丸太の需要がまったく回復しない。(東京:問屋)	
	産地価格の上昇分を販売価格に転化するのが難しい。顧客の価格要望に合わせるのは無理。(東京:問屋)	
	通常販価が通らず、極端な安値材への問い合わせ。(東京:問屋)	
	全く売れない。電話もかかって来ない。(東京:問屋)	
	構造材はもとより、造作材の動きもかなり悪い。(東京:問屋)	
	出口見えない不振。特に構造材が悪い。(東京:問屋)	
	相変わらずその日暮らしが続く。商いは細かく必要材、必要量だけである。(東京:問屋)	
	国産材・外材を問わず、木材が売れなくなった。仕事もすこし出てきたが建材がメインになっている。(東京:仲買小売)	
リフォームの仕事は忙しい。最近大工の手を増やした。工務店も当社も仕事が入ってこない。(東京:仲買小売)		
リフォーム関係は多少動いてきたが、新築はさっぱり。先行き不透明。(東京:仲買小売)		
ヒノキ柱角は相変わらず弱い。原油高によるコスト高、運賃高のはずなのに、原木・製品共に安値が続く。(東海:問屋)		
ロシア材の値上がりの為、針葉樹合板・アカマツタルキ値上がりしてきた。この先どうなるのか。(東海:仲買小売)		
自社は今月も好調に荷が動いているが周りで全く動いていない話を聞く。二極分化の傾向が出て来たようだ。(東海:仲買小売)		
在庫 動向	4月入荷分米マツ丸太は総じて荷動き鈍く、問屋の手持ち在庫も増加している。(東京:問屋)	
	入荷量が引き続き少ないことから在庫量も必然的に減少。(東京:問屋)	
向	売れないし、買えないため少しずつ減っている。(東京:問屋)	
	下げの心配ないので在庫はいつも適正に。(東京:問屋)	
5月売上減のため今後は調整。(東京:問屋)		
2. 価格動向		
スギ正角	KD材荷動き低下。間柱も失速。(東京:問屋)	グリーン材は弱い。市場で激安あり。(東京:問屋)
	一部分譲住宅で使用を始めた(コストを下げる為)。(東海:問屋)	
ヒノキ正角	需要が見られず、流通量が極端に低下。(東京:問屋)	土台はKDが動くようになってきた。(東京:問屋)
ヒノキ土台角	輸送コストを木材価格に上乗せできない。構造材は値上げ出来ず、音を上げている。(東京:仲買小売)	
	正角:集成材の依存率高い。土台:一部の注文住宅に使用するのみ。(東海:問屋)	
	梅雨に入ってヒノキ構造材全般に弱含み(東海:問屋)	
米ツガ	グリーン材は弱含み。KDは据置。(東京:問屋)	
	正角・割物使用は少量(一部ビルダーのみ)。土台角は分譲系ビルダーの仕様変更で使用増。価格横ばい。(東海:問屋)	
米マツ平角	横ばい。(東海:問屋)	
北洋アカマツタルキ	アカマツ材価やや上げ。(東京:仲買小売)	
	需給バランスが伴っていない。(東海:問屋)	
WW・RW集成材	WW柱がスギ柱にとられ値下がる。RW平角もKD平角に取られ値上げしたいがキツイ。(東京:問屋)	
	RW値上がりしそうでも売れ行き不振で上げ切れない。(東京:問屋)	
	管柱7-9月入荷やや下落。平角は現地の減産で在庫調整進む。7月積みよりやや強含みか。(東海:問屋)	
合板	停滞気味で上げることも下げることも出来ない。今後中国への復興材としてどう動くのか気になる。(東京:仲買小売)	
	針葉樹合板の3-4ヶ月後の価格・原材料の動向には大変関心を持ち、注視している。(東京:仲買小売)	
	入荷減に伴いやや強含み。針葉樹合板在庫調整進みやや強含み。(東海:問屋)	